第13回全国高校選抜大会

明星(男子) 夙川学院(女子)が初優勝を飾る

第13回全国高校選抜大会は、３月23日から27日までの５日間、名古屋市の愛知県体育館に全国から男女各26校が選抜されて集い、栄冠目指して激しい闘いをくり広げた。

男子は、横浜商工（神奈川）と明星（東京）という昨年と全く同じ顔合わせの決勝戦となった。昨年は、横浜商工が26—15と大差で下して優勝を飾ったが、今年は雪辱を期する明星がよく粘り、後半追い上げて延長戦へともつれ込んだ。横浜商工は、第８回大会でも長崎の瓊浦と決勝を延長で闘いせり勝っているが、今年は明星の雪辱への執念が勝り、24—21で初優勝を飾った。

女子決勝は、昨年に続き２連覇を目指す名古屋短大付属（愛知）と夙川学院（兵庫）という対決となった。前半、夙川が大きくリードを奪ったが、後半に入って名短付が激しく追い上げ、終了寸前のフリースローからのシュートであわや延長戦かと思わせたが、惜しくもタイムアップ。夙川学院が辛くも１点差で逃げ切り、念願の初優勝を果たした。

今大会は実力の接近した試合が多く、女子では延長戦が４試合も見られるなど、白熱した試合を見せてくれ、おおいに盛り上がった。

男子

1回戦

市川（千葉） 17 〔5—9、12—5〕 14 市岐阜商（岐阜）

〔戦評〕立ち上がり市川がリードを奪い、このまま逃げ切るかと思われたが、10分過ぎより市岐阜商は日比野のＰＴをきっかけに7連続得点で逆転し、9—5で前半を終了した。
　後半、市川は積極的なディフェンスから速攻を出し、ＰＴも含め前半とは逆に6連続得点を決め、14分過ぎについに同点とした。その後もペースをつかんだ市川があせる市岐阜商をうまくかわし、確実に得点を重ねて初戦を飾った。

	〔岐阜商〕	得	〔市川〕	得
ＧＫ	此島	0	浜松	0
ＧＫ	渡辺	0	紫内	0
ＦＰ	中村	3	塚越	3
ＦＰ	日比野	1	吉橋	2
ＦＰ	古賀	1	川上	1
ＦＰ	川畑	3	武井	5
ＦＰ	武内	1	太田	5
ＦＰ	安田	2	松村	1
ＦＰ	長谷川	3	三宅	0
ＦＰ	上吉原	0	岡田	0
ＦＰ	塩谷	0	吉田	0
ＦＰ	杉山	0	平川	0
ＰＴ		(1)		(4)
		14		17

（審・光安 小坪）

桂（京都） 17 〔10—4、7—8〕 12 下松工（山口）

〔戦評〕下松工のスローオフで始まったこの試合は、前半5分間、両チームともに波に乗り切れず、パス、シュートミスを重ね得点できなかった。ゲームが動きだしたのは、下松工の横の動きを多用した中でのミドルシュートであった。それに対し桂はポストプレーなどで対抗した。しかし、下松工の動きがパターン化し、桂のディフェンスにつかれ、ミドルシュートが打てなくなり、桂のロング、速攻で点が離れ、ロングシュートなどで一進一退のゲームが続き、結局前半のリードがきいてゲームは決まった。
　前半の下松工のミドルシュートの少なさが大きく影響したと思われる。

	〔下松工〕	得	〔桂〕	得
ＧＫ	保科	0	西澤	0
ＧＫ	亀山	0	水野	0
ＦＰ	広中	4	松村	1
ＦＰ	内山	0	八木	0
ＦＰ	藤井	3	北浦	3
ＦＰ	浅本	2	朽岡	3
ＦＰ	石田	2	森川	5
ＦＰ	坂本	1	片山	1
ＦＰ	鍵谷	0	岩本	4
ＦＰ	五郎丸	0	森川	0
ＦＰ	湯浅	0	友田	0
ＦＰ	高杉	0	土肥	0
ＰＴ		(3)		(1)
		12		17

（審・板倉 岩本）

明星（東京） 26 〔10—4、16—5〕 9 高松商（香川）

〔戦評〕明星の五島、高松商・末本両エースのシュートの打ち合いで試合が始まり、前半残り5分に明星は速攻により連続3点を取り10—4とリードして前半を終了。
　後半に入り、明星の早いディフェンスを高松商が攻めあぐむうちに、明星は着実に得点を重ねて勝利をつかんだ。
　高松商ＧＫ紺田の好守が光った。

	〔高松商〕	得	〔明星〕	得
ＧＫ	紺田	0	梶山	0
ＧＫ	藤井	0	小林	0
ＦＰ	高橋	1	五島	13
ＦＰ	藤井	0	金井	2
ＦＰ	末本	4	遠藤	0
ＦＰ	藤原	0	田代	4
ＦＰ	吉峰	3	野島	0
ＦＰ	西塚	0	宍戸	0
ＦＰ	中野	0	島沢	5
ＦＰ	久保田	0	高橋	1
ＦＰ	西村	0	田代	0
ＦＰ	東山	1	佐藤	1
ＰＴ				
		9		26

（審・渡辺 楓）

函館有斗（北海道南） 23 〔10—11、13—10〕 21 聖光学院（福島）

〔戦評〕まず先手を取ったのは聖光のロングシュート、函館有斗もすかさず澤村のロングシュートでおかえし。前半10分あたりから聖光のコンビプレーが冴え、聖光ペースになるかと思われたが、函館有斗もディフェンスを頑張り追い上げムード。結局、前半は聖光が11—10と1点をリードした。
　後半に入ると函館有斗の動きが良くなり、宮田の連続3得点で一気に逆転した。その後は一進一退の攻防が続いたが、激しいせり合いの結果、函館有斗が23—21の僅差で勝利を収めた。

	〔聖光〕	得	〔有斗〕	得
ＧＫ	熊坂	0	高橋	0
ＧＫ	大槻	0	越崎	0
ＦＰ	斎藤	5	緋田	0
ＦＰ	金子	6	納谷	0
ＦＰ	渡辺	3	中村	0
ＦＰ	柏倉	6	白幡	2
ＦＰ	佐藤	1	澤村	3
ＦＰ	佐藤	0	渡部	5
ＦＰ	佐藤	0	中島	4
ＦＰ	佐藤	0	宮田	6
ＦＰ	白井	0	鳶澤	3
ＦＰ	大槻	0	神山	0
ＰＴ		(5)		(3)
		21		23

（審・永田 花井）

高岡向陵（富山） 35 〔18—12、17—17〕 29 岡崎城西（愛知）

〔戦評〕両チームともに攻撃のチームであった。勝負のポイントは高岡向陵の個人のシュート力と岡崎城西の前半防御の荒さであった。特に高岡の松本の個人技（スナップの利いたシュート）には、観客も注目するほどであった。
　前半立ち上がり、高岡・松本をフリーにしすぎて、岡崎は連続得点を与えてしまい、防御ではあせりが見え、ラフなプレーが続いて10分以降退場を4名も出してしまった。高岡・松本にマンツーがついても、高岡、尾居、岡谷内、藤坂の頑張りで20分過ぎには7点差をつける。
　後半は両チームとも防御が雑になり、点の取り合いになったが、前半の6点差を詰めることはできなかった。

	〔岡崎城西〕	得	〔高岡〕	得
ＧＫ	堀木	0	鎌仲	0
ＧＫ	神谷	0	井畠	0
ＦＰ	丹羽	5	藤坂	1
ＦＰ	石田	5	松本	18
ＦＰ	小野	0	星居	4
ＦＰ	金子	5	朝倉	1
ＦＰ	清水	3	岡谷	4
ＦＰ	小川	5	椎山	0
ＦＰ	橋本	2	藤坂	7
ＦＰ	山内	3	中西	0
ＦＰ	山ノ口	1	薮下	0
ＦＰ	牧野	0	宮崎	0
ＰＴ		(5)		(3)
		29		35

（審・杉本 石川）

小松明峰（石川） 27 〔14—7、13—8〕 15 釧路湖陵（北海道北）

〔戦評〕前半出だし、双方ともややミスが目立ち、雑なゲーム展開となった。スピードに勝る小松明峰が相手ミスを拾い、速攻で着実に加点した。一方釧路湖陵は、小松明峰のディフェンスを攻めあぐみ、前半を14—7で終了。
　後半に入り、小松明峰のプレーが雑になったところを釧路湖陵が全員でよく走り食い下がった。しかし、小松明峰は前半の貯金を生かし、悠々と逃げ切った。

	〔釧路〕	得	〔明峰〕	得
ＧＫ	樋口	0	藤島	0
ＧＫ	残間	0	辻本	0
ＦＰ	荒井	1	北橋	8
ＦＰ	大久保	3	角井	0
ＦＰ	今橋	1	菊谷	3
ＦＰ	松村	1	藤田	9
ＦＰ	小川	0	石井	4
ＦＰ	吉野	0	大壁	1
ＦＰ	高橋	0	山田	0
ＦＰ	富樫	4	中村	2
ＦＰ	亀山	5	藤原	0
ＦＰ	飴	0	清水	0
ＰＴ		(0)		(1)
		15		27

（審・川島 森）

正強（奈良） 33 〔15—2、18—12〕 14 清水市商（静岡）

〔戦評〕前半の立ち上がりは、両チームともＧＫの好守により得点はなかったが、正強・松江のカットインから波に乗り、前半12分までに8—0とリードした。一方清水市商は、攻撃の

ミスから得点を与え、ディフェンスにおいても9本のPTをとられ、リズムに乗れないまま15－2と正強の大量リードで前半を終えた。
　後半も正強は樫原のロングシュートを中心に着々と得点していった。清水市商も岩崎の速攻、スカイプレー、望月のロングシュートで得点していくが、前半のミスが最後まで大きく響いた。

	〔清水〕	得	〔正強〕	得
GK	足立	0	東田	0
GK	成岡	0	矢内	0
FP	新井	0	松江	3
FP	望月	3	鶴田	1
FP	田代	2	木村	11
FP	渡辺	2	宮本	2
FP	岩崎	6	大橋	3
FP	山下	1	樫原	10
FP	大里	0	堀江	3
FP	太田	0	上武	0
FP	大井	0	栄枝	0
FP	池田	0	岡本	0
PT	(1)	14	(9)	33

（審・夏目、中森）

総社（岡山） 21 〔12－7／9－13〕 20 **長崎日大**（長崎）

〔戦評〕前半立ち上がり、長崎日大の高木がロングシュートを決め長崎日大ペースに持ち込もうとするが、総社の早い展開からのポスト、カットインプレーが前半中頃より決まり始め、総社ペースとなる。しかし長崎日大のGK大塚の好守により差を5点で食い止めた。
　後半に入り、総社のシュートミスが目立った。それに比べ長崎日大は着実に点を積み重ね同点とする。その後一進一退の好ゲームを展開するが、最後の1点を守り切った総社が試合をものにした。

	〔長崎〕	得	〔総社〕	得
GK	大塚	0	山上	0
GK	中野	0		
FP	高木	5	白神	3
FP	池田	2	安田	6
FP	山根	4	木口	4
FP	吉原	2	山邊	3
FP	村中	3	藤本	3
FP	緒方	3	瀬尾	2
FP	福田	1	水畑	0
FP	本木	0	江口	0
FP	野原	0	岡	0
FP	松本	0	浅田	0
PT	(0)	20	(4)	21

（審・日比、工藤）

中京（愛知） 24 〔9－8／15－8〕 16 **仙台育英**（宮城）

〔戦評〕開始早々、中京の近藤、中井を中心としたスピードとパワーある攻撃に仙台育英は4点を許したが、その後積極的に守り、坂下、重田が確実に得点を重ね、前半終了1分前ついに同点とした。
　後半も前半と同様の展開が続き、仙台育英にも再三逆転のチャンスはあったが、シュート力に勝る中京が、GK加藤の好守に支えられながら徐々に点差を広げ、初戦をものにした。

	〔仙台〕	得	〔中京〕	得
GK	佐藤	0	加藤	0
GK	舟橋	0	日比野	0
FP	後藤	3	近藤	5
FP	坂下	7	中井	9
FP	重田	3	政金	2
FP	大崎	0	坪井	1
FP	高橋	0	岩田	1
FP	水谷	2	坂田	0
FP	真田	0	久野	0
FP	丸山	1	山崎	2
FP	大庭	0	佐々木	1
FP	山内	0	藤下	1
PT	(3)	16	(6)	24

（審・細沢、清水）

上宮（大阪） 28 〔14－8／14－8〕 16 **松山北**（愛媛）

〔戦評〕両チームとも似たチームで、全員で小気味よく動き、速攻、カットイン、ポスト、ロングと多彩な攻撃で互角の滑り出し。前半中盤から松山北のミスを速攻につないで上宮がペースをつかみ7点連取し、前半14－8と6点差で終了。
　後半は、出だし上宮は松山北を固いディフェンスで封じこみ、ミス、単発シュートを速攻につないで10連取し、ゲームの大勢を決めた。松山北も三須田を中心によく健闘したが、上宮のスピード、テクニックが上回った。

	〔松山北〕	得	〔上宮〕	得
GK	大森	0	菊野	0
GK	成松	0	樋口	0
FP	梅村	4	小林	1
FP	横山	2	宮地	2
FP	筒井	0	真田	5
FP	松岡	3	荘埜	1
FP	門屋	1	大川	7
FP	三須田	5	吉田	6
FP	高木	0	森居	2
FP	豊田	0	中井	3
FP	竹下	0	森島	1
FP	中野	1	谷川	0
PT	(1)	16	(2)	28

（審・天神、足立）

2回戦

久工大付（福岡） 24 〔14－14／10－9〕 23 **市川**

〔戦評〕前半は立ち上がりから両チームとも持ち味を出し互角の戦いとなった。久留米工大付は、市川・武井にマンツーマンについて守るなどするが、両チームともディフェンスの詰めが甘いため、ゴールエリアライン付近での攻防が目立ち、ペナルティーによる得点が多い展開で、前半を終了した。
　後半に入り、市川は塚越などの連続得点で3点差まで広げ、波に乗りかけたが、久留米工大付はサイドシュート、速攻などで反撃しすぐに同点に追いつき、さらに13分過ぎには逆に1点リードした。その後お互いに得点を重ね、終盤まで勝敗のわからないゲームとなったが、辛くも久留米が1点差で逃げ切った。

	〔市川〕	得	〔久留米〕	得
GK	浜松	0	中島	0
GK	紫田	0	文	0
FP	塚越	9	岡	2
FP	吉橋	0	誉田	9
FP	川上	3	古賀	0
FP	武井	6	田中	0
FP	太田	4	平	0
FP	松村	1	江口	1
FP	三宅	0	鶴田	3
FP	岡田	0	飯田	2
FP	吉田	0	馬場	7
FP	平川	0	川崎	0
PT	(5)	23	(5)	24

（審・川島、森）

明星 28 〔13－6／15－8〕 14 **桂**

〔戦評〕前半立ち上がり両チームシュートを放つが得点できず、その均衡を破ったのが明星・田代のシュートであった。その後はキャプテン片山を軸に直線的な攻撃からポストをからめる桂。同じくキャプテン五島を中心に速い展開から多彩なシュートを放つ明星と両チーム持ち味を出しての攻防であった。前半は13－6と明星リード

2回戦の久留米工大附と市川の一戦

で折り返す。

後半も試合巧者の明星がポスト、サイド、ロングで着実に加点、桂も必死に追い上げようとするものの得点に結びつかず、苦しい展開になる。結局28—14で明星が勝利を収めた。

〔桂〕	得		〔明星〕	得
西澤	0	GK	梶山	0
水野	0	GK	小林	0
松村	1	FP	五島	10
八木	0	FP	金井	1
北浦	0	FP	遠藤	4
栃岡	0	FP	田代	6
森川	0	FP	野島	0
片山	9	FP	宍戸	0
岩本	0	FP	島沢	5
森川	3	FP	高橋	0
友田	1	FP	田代	1
土肥	0	FP	佐藤	1
(4)	14	PT	(2)	28

（審・岩本 板倉）

明石北 24〔9—11 / 15—6〕17 函館有斗

〔戦評〕両チームともスピードのある攻撃で開始早々鋭いシュートの打ち合いとなった。15分過ぎ、明石北は貝田、足立が連続退場となり、函館有斗が有利かと思われたが、そのピンチもよく踏ん張り両者一歩も譲らず激しい展開が続いた。

後半も随所で気迫のこもったプレーが見られたが、粘りのなくなりつつある函館有斗に対して明石北は確実に得点を重ね、8分過ぎについに同点とし、その勢いで逆転に成功した。その後明石北は足立を失格で欠いたもののペースを乱さず、7点差にまで広げて勝ち進んだ。

〔有斗〕	得		〔明石北〕	得
高橋	0	GK	八幡	0
越崎	0	GK	高木	0
緋田	0	FP	貝田	7
納谷	0	FP	岩田	3
中村	2	FP	的場	0
白幡	2	FP	江村	2
澤村	2	FP	岡本	2
渡部	4	FP	足立	7
中島	0	FP	菅野	0
宮田	8	FP	十倉	0
鳶澤	1	FP	吉田	0
神山	0	FP		
	17	PT		24

（審・松本 石川）

浦和学院（埼玉）13〔6—5 / 7—4〕9 高岡向陵

〔戦評〕前半、高岡向陵が松本の3連続得点で先行。立ち上がりリズムに乗れない浦和学院であったが、5分過ぎからペースをつかみ3—3の同点に追いつく。その後両者シュートを放つものの決定力を欠き得点できず。ようやく17分高岡向陵PTで得点。しかし、すぐ浦和学院が追いつき4—4。その後も一進一退の攻防が続き、結局6—5と浦和のリードで前半終了。

後半に入って、浦和が須藤らの頑張りで高岡向陵を引き離しにかかった。高岡も必死で食い下がるが、今一歩のところで追いつけず、結局13—9で浦和学院が逃げ切った。

〔高岡〕	得		〔浦和〕	得
鎌仲	0	GK	平賀	0
井畠	0	GK	菊地	0
藤坂	2	FP	山田	5
松本	5	FP	須藤	6
尾居	1	FP	塚越	0
朝倉	0	FP	渡部	0
岡谷	0	FP	大内	1
椎山	0	FP	新方	1
藤坂	1	FP	渋谷	0
中西	0	FP	葉山	0
薮下	0	FP	田部井	0
宮崎	0	FP	上久保	0
(3)	9	PT	(3)	13

（審・中森 夏目）

熊本市商（熊本）18〔7—5 / 11—9〕14 小松明峰

〔戦評〕開始2分、熊本市商は速いローリングからディフェンスのすきをつき平田が先制する。その後も松谷のロング、出足の速い全員速攻で着実に加点。一方小松明峰は5分、藤多のワンパス速攻を機に波に乗ろうとするが、時折放つ北橋のミドルシュートも高いディフェンスにことごとく阻止され、苦しい展開となったが、なんとか粘って前半を7—5で折り返す。

後半に入っても、小柄だが俊敏な選手の多い小松がパワーと高さの熊本に粘り強くついていくが、あと一歩及ばなかった。

〔明峰〕	得		〔熊本〕	得
藤島	0	GK	東	0
辻本	0	GK	西浦	0
北橋	5	FP	梅井	4
角井	0	FP	久保田	0
菊谷	3	FP	平田	3
藤多	3	FP	宮崎	0
石井	1	FP	長松	3
大壁	1	FP	松谷	5
山田	0	FP	浜津	0
中村	1	FP	加川	2
藤原	0	FP	益崎	1
清水	0	FP	永井	0
(1)	14	PT	(2)	18

（審・渡辺 楓）

正強 26〔12—11 / 14—9〕20 吉井（群馬）

〔戦評〕前半立ち上がり、正強はたくみなパス回しから全員がシュートを狙う攻撃で着々と得点を重ねた。一方吉井は、正強GKの好守になかなか得点できない。15分過ぎ、徐々にペースをつかんできた吉井が点差を縮め、12—11で前半を終了した。

後半に入って、吉井はGK斉藤の速いパス出しから関口がスピードに乗った攻撃で得点をあげ、逆転に成功した。しかし、正強も一時は4点差と離されたが、よく頑張り、残り4分に同点に追いつきそのペースで一気に逆転、6点差をつけて吉井を突き放した。

得	〔正強〕		〔吉井〕	得
0	東田	GK	斎藤	0
0	矢内	GK	神山	0
4	松江	FP	浅香	1
0	鶴田	FP	高木	0
10	木村	FP	斎藤	0
4	宮本	FP	松井	0
2	大橋	FP	斎藤	4
4	樫原	FP	飯塚	1
2	堀江	FP	黒沢	6
0	上武	FP	関口	7
0	栄枝	FP	神戸	1
0	岡本	FP	佐々木	0
26	(6)	PT	(1)	20

（審・細沢、清水）

中京 24（13－10、5－8、2－2、4－0）20 総社

〔戦評〕総社・山辺のロングから始まり、これに対し中京も中井のロングで応戦、一進一退の展開となった。総社・安田のカットイン、中京・近藤のカットインと続き、13－10と中京リードで前半終了。

後半に入り、両チームとも決め手を欠き、ミスが目立ち始めてなかなか加点できず、終了15秒前に安田のシュートで同点に追いつき延長戦にもつれ込んだ。

中京GK日比野の好守のなか、岩田の速攻で点差を広げ、結局24－20で中京が勝利を収めた。

得	〔中京〕		〔総社〕	得
0	加藤	GK	山上	0
0	日比野	GK		
5	近藤	FP	白神	2
10	中井	FP	安田	8
3	政金	FP	木口	3
1	坪井	FP	山辺	3
4	岩田	FP	藤本	0
0	坂田	FP	瀬尾	3
0	久野	FP	水畑	1
1	山崎	FP	山口	0
0	佐々木	FP		
0	藤下	FP		
24	(2)	PT	(5)	20

（審・日比、工藤）

横浜商工（神奈川）28（12－9、16－12）21 上宮

〔戦評〕立ち上がり得意にポストプレーが乱れた横浜商工に対し、外からのシュートで上宮が5分までに3－1とリードする。しかしながら鋭い動きとトリッキーなプレーで着実に得点し始めた横浜に対し上宮は約10分間得点できず5点差となる。終了5分前に上宮が追い上げ、3点差で前半を終る。

後半に入って、ポスト、ロング、速攻とバラエティーに富む攻撃で着実に得点を加える横浜商工に対し上宮は横浜ディフェンスの厚い壁を突破できず、10分までに8点差をつけられる。その後も上宮もよく反撃するが、横浜の動きを止めることができず差を縮められないまま試合を終了した。

得	〔横浜〕		〔上宮〕	得
0	小野寺	GK	菊野	0
0	本郷	GK	樋口	0
4	山地	FP	小林	2
10	小沢	FP	宮地	3
2	松澤	FP	真田	5
0	後藤	FP	荘埜	0
4	西村	FP	大川	4
0	斎藤	FP	吉田	4
7	太刀川	FP	太田	0
0	中村	FP	森居	0
1	熊倉	FP	中井	3
0	木村	FP	森島	0
28	(2)	PT	(2)	21

（審・川島、森）

3回戦

明星 23（12－9、11－9）18 久工大付

〔戦評〕古豪同士の戦いとなったこの試合、久留米工大付は馬場、明星は田代らにより一進一退のゲームで始まった。10分、明星・田代のロングシュートをきっかけにリードを奪い6－3とする。その後久留米は明星・五島にマンツーマン・ディフェンスを行ない、また明星に反則も重なって追撃するが、12－9で前半を終了。

後半に入り両チームともスピードある攻撃を続けるが、久留米にミスが目立ち、明星が着実に得点を重ねてリードを広げた。久留米は終始明星・五島にマンツーマン・ディフェンスを行ない、追撃のきっかけをつかもうとするが、明星の多彩な攻撃による得点を許し23－18で試合終了。

得	〔明星〕		〔久留米〕	得
0	梶山	GK	中島	0
0	小林	GK	文	0
2	五島	FP	岡	0
0	金井	FP	誉田	3
5	遠藤	FP	古賀	0
7	田代	FP	田中	0
0	野島	FP	江口	3
0	宍戸	FP	藤原	0
6	島沢	FP	鶴田	3
1	高橋	FP	飯田	3
0	高井	FP	馬場	3
2	佐藤	FP	川崎	3
23	(0)	PT	(3)	18

浦和学院 19（9－10、10－6）16 明石北

〔戦評〕前半立ち上がりは、両チームとも固さが見られ、両フローターの打ち合いで一進一退が続く。作戦タイムを機に浦和学院の打点の高いシュートが決まりだすが、明石北の切れの鋭いカットインが冴え、前半は明石北の1点リードで終る。

後半開始直後、互いに反則退場を得るが、うまく得点に結びつけることができない。しかし、浦和はGKの好守からリズムに乗り、徐々に点差を広げる。一方明石北は、センターからの攻撃が影をひそめ、サイド勝負となってGKにことごとく防がれた。結果的に見ると浦和の勝利であったが、両チームともミスが目立ち、単調な試合であった。

得	〔浦和〕		〔明石北〕	得
0	平賀	GK	八幡	0
0	菊地	GK	高木	0
8	山田	FP	貝田	6
2	須藤	FP	足立	4
0	高野	FP	岩田	2
2	塚越	FP	的場	1
7	大内	FP	江村	1
0	新方	FP	岡本	0
0	渋谷	FP	足立	2
0	葉山	FP	菅野	0
0	田部井	FP	十倉	0
0	上久保	FP	吉田	0
19	(2)	PT	(4)	16

（審・渡辺、楓）

熊本市商 30（14－10、16－9）19 正強

〔戦評〕前半10分過ぎまでは、正

強が速いパス回しからステップ、サイドシュートで、熊本市商は長身・平田のロングシュートを軸にお互い得点を取り合い互角であった。その後、熊本市商の益崎、平田のロングシュートが確実に決まり、徐々に得点差が広がり、熊本市商の4点リードで前半を終了。

後半に入ってもゲームの流れは変わらず、熊本市商がじわじわと差を広げた。正強もよく粘ったが、最後まで熊本市商の高いディフェンスの壁が破れず、ゲームが終了した。

得	〔熊本〕		〔正強〕	得
0	東	GK	東田	0
0	西浦	GK	矢内	0
1	蔵田	FP	松江	3
7	梅井	FP	鶴田	0
2	久保田	FP	木村	5
9	平田	FP	宮本	4
2	長松	FP	大橋	2
1	松谷	FP	樫原	3
3	浜津	FP	堀江	2
0	加川	FP	上武	0
5	益崎	FP	栄枝	0
0	永井	FP	岡本	0
30	(2)	PT	(1)	19

（審・岩本 板倉）

横浜商工28 〔12—9 / 16—8〕 17中　京

〔戦評〕前半、横浜商工が本来の巧みなパスワークが空回りし、波に乗れずに苦戦をしいられる。逆に中京は少ないチャンスを得点に結びつけ、必死に食い下がった。しかし、地力に勝る横浜商工がディフェンスで踏張り、15分過ぎから中京を突き放しにかかり、16—9とリードして前半を終了。

後半も立ち上がりは中京が必死に食い下がるものの、ソツなくどこからも点を取れる横浜商工と比較するとやはり格が違っていたようだ。それにしても、横浜商工のスピードはすばらしい。

得	〔横浜〕		〔中京〕	得
0	小野寺	GK	加藤	0
0	本郷	GK	日比野	0
2	山地	FP	近藤	2
4	小沢	FP	中井	4
3	松澤	FP	政金	1
7	後藤	FP	坪井	1
4	西村	FP	岩田	2
0	斎藤	FP	坂田	0
2	太刀川	FP	久野	2
1	中村	FP	山崎	4
5	熊倉	FP	佐々木	0
0	木村	FP	藤下	1
28	(2)	PT	(1)	17

（審・細沢 清水）

延長の大熱戦を展開した明星対横浜商工の決勝戦

準決勝

明　星21 〔10—9 / 11—10〕 19浦和学院

〔戦評〕準決勝らしく、両者前半から激しい攻防を展開した。なかでも明星・高橋のフェイントからの力強いロング、一方浦和学院・大内のサウスポーから繰り出す切れの良いロングで応戦し、僅差ではあるが明星が終始リードし、前半11—10で折り返した。

後半立ち上がり、浦和は同点に追いつくが、明星キャプテンの五島がロングを決めるなど見応えのある一進一退の攻防を展開した。結局、個人技に勝る明星が苦しみながらも前半のリードを守り、辛くも逃げ切った。

得	〔明星〕		〔浦和〕	得
0	梶山	GK	平賀	0
0	小林	GK	菊地	0
7	五島	FP	山田	2
1	金井	FP	須藤	4
4	遠藤	FP	塚越	1
4	田代	FP	大内	8
0	野島	FP	新方	2
0	宍戸	FP	渋谷	1
3	島沢	FP	葉山	1
2	高橋	FP	形上	0
0	高井	FP	田部井	0
0	佐藤	FP	上久保	0
21	(4)	PT	(1)	19

（審・川島 森）

横浜商工21 〔13—8 / 8—9〕 17熊本市商

〔戦評〕双方とも気迫のこもったプレーで、特にディフェンス、GKがよく踏張り、10分で2—2と互角の滑り出し。熊本市商がPTをはずす間に横浜商工がペースをつかみ一歩抜け出すかに見えたが、ミスが続いたところを熊本市商が速攻でたたみかけ、前半を9—8とリードして終了。

後半に入り、熊本市商・平田、横浜・小沢、斉藤を中心にした打ち合いになった。後半13分、熊本市商に退場者が出た際に横浜商工が15—15と同点に追いつき、20分過ぎから速攻、ロングと4点を連取、ゲームを決めた。

得	〔横浜〕		〔熊本〕	得
0	小野寺	GK	東	0
0	本郷	GK	西浦	0
1	小池	FP	蔵田	0
8	小沢	FP	梅井	4
0	松沢	FP	久保田	3
2	後藤	FP	平田	6
6	西村	FP	宮崎	0
0	斎藤	FP	長松	0
3	太刀川	FP	松谷	0
0	中村	FP	加川	2
1	熊倉	FP	益崎	2
0	木村	FP	永井	0
21	(1)	PT	(1)	17

（審・細沢 清水）

決勝

明　星24 〔7—10 / 12—9 / 3—1 / 2—1〕 21横浜商工

〔戦評〕昨年同様、明星と横浜商工の決勝戦となった。

前半開始から両チームとも気迫に充ちた攻防を繰り広げ、高校ハンドボール界の頂点を極めるにふさわしい試合となった。ゲームの方は20分まで両者一歩も譲らない展開となる。しかし、残り5分で横浜商工が3点差をつけ前半を終了する。

後半も一進一退の好ゲームが続くが、今度は逆に明星が前半の3点差を追い上げ、残り3分で逆転。しかし、横浜商工も踏張り、残り1分で同点、延長戦に入る。

延長に入っても明星の勢いは止まらず、この試合大活躍の五島、遠藤のシュートで横浜商工を退け今大会初優勝を成し遂げた。

得	〔明星〕		〔横浜〕	得
0	梶山	GK	小野寺	0
0	小林	GK	本郷	0
8	五島	FP	山地	2
1	金井	FP	小沢	7
9	遠藤	FP	松沢	0
1	田代	FP	後藤	2
0	野島	FP	西村	6
0	宍戸	FP	斉藤	0
3	島沢	FP	太刀川	2
0	高橋	FP	中村	0
0	高井	FP	熊倉	2
2	佐藤	FP	木村	0
24	(0)	PT	(3)	21

（審・川島 森）

女子

1回戦

西宇治（京都）14〔8－5 6－8〕13 **福井商**（福井）

〔戦評〕西宇治は卯路のポストシュートで得点を重ねるが、福井商はスピードに乗った展開の中でラインクロス、オーバーステップのミスが目立ち、8－5と西宇治がリードして前半を終了。
後半開始より西宇治に退場者が続き、福井商は松村、朝倉の速攻などで10－10の同点に追いつくが西宇治が卯路の連続速攻により逃げ切った。

〔福井商〕	得		〔西宇治〕	得
田中	0	GK	内田	0
森	0	GK	仲間	0
松村	7	FP	大沢	4
武田	0	FP	国嶺	0
辻	1	FP	井月	2
矢尾	1	FP	卯路	7
朝倉	4	FP	内山	0
村上	0	FP	和田	0
倉臼	0	FP	高木	1
田中	0	FP	笹部	0
畑	0	FP	小山	0
小林	0	FP	金森	0
13	(3)	PT	(3)	14

（審・川島、森）

大曲農（秋田）30〔13－8 17－3〕11 **釧路商**（北海道北）

〔戦評〕立ち上がりから釧路のコンビプレーを中心としたセットオフェンスと大曲の速攻、ロングシュートというゲーム展開であったが、前半15分あたりから釧路のミスが目立ちはじめ、大曲は速攻により得点を重ね、13－8と前半をリードした。
後半に入ると、釧路の足も止まり、得点のコンビプレーを相手に通用せず、大曲は守って速攻という理想的な展開で点差を開き、一方的なゲームとなった。結局、総合力に勝る大曲が30－11で大勝した。

〔釧路商〕	得		〔大曲農〕	得
平野	0	GK	大澤	0
山本	0	GK	板谷	0
遠山	0	FP	今川	4
五十嵐	2	FP	千葉	2
船場	4	FP	加藤	3
野口	2	FP	小松	1
北谷	1	FP	松本	2
藤田	1	FP	千田	10
稲葉	0	FP	千田	0
大竹	1	FP	高橋	4
長田	0	FP	高橋	2
		FP	中村	2
11	(1)	PT	(5)	30

（審・夏目、中森）

名短付（愛知）28〔9－4 19－8〕12 **読谷**（沖縄）

〔戦評〕前半両チームともよく走るがミスが目立ち、14分過ぎまで互角であった。名短付は持ち前のスピードと速いパス回しからのミドルシュート、サイドシュートが決まり、ペースをつかんだ。一方読谷は、セットプレーからポストへボールを集めシュートするが、名短付GKの好守もあって点差を縮めることができなかった。
後半5分過ぎ、読谷は作戦タイムを取り何とか流れを変えようとしたが、名短付の速い攻めにより点差が開くばかり。しかし、後半11分読谷の大城のスカイプレーは見事であった。

〔読谷〕	得		〔名短付〕	得
松田	0	GK	紫田	0
松田	0	GK	平山	0
松田	3	FP	飯田	9
比嘉	1	FP	塩田	6
冨着	3	FP	合田	3
山城	0	FP	中田	0
比嘉	0	FP	山田	4
新垣	1	FP	飯田	3
大城	3	FP	武藤	3
新垣	1	FP	鈴木	0
池宮城	0	FP	加藤	0
松田	0	FP		
12	(1)	PT	(4)	28

（審・細沢、清水）

暁（三重）26〔11－6 9－14 3－2 3－2〕24 **高松商**（香川）

〔戦評〕暁は江川の切れ味鋭いロングシュートで得点を重ねるとともに、ディフェンスは左45度にマンツーマンをあて、高松商のオフェンスのリズムを崩し、優勢にゲームを進めた。前半15分過ぎから高松商も動きの固さがとれ、得点をあげ、前半11－6で終了。
後半に入り高松商がリズムをつかみ、カットイン、ポストで13－13と追いついた。その後暁は江川のロング、高松商はカットイン、ポストでお互いに譲らず、一進一退の白熱した攻防が続き延長へ突入。延長に入っても、それぞれ持ち味を生かして攻防をくり返したが、残り1分25－24から暁GKが高松商のPT、ノーマークポストシュートを2本続けてシャットアウトし、26－24で逃げ切った。

〔高松商〕	得		〔暁〕	得
木村	0	GK	高橋	0
武田	0	GK		
植松	1	FP	江川	19
入江	1	FP	豊田	1
小川	0	FP	清水	0
溝渕	5	FP	渥美	1
畠山	6	FP	寺前	1
平田	8	FP	倭	4
十家	0	FP	中川	0
村井	0	FP		
熊野	1	FP		
藤田	1	FP		
24	(7)	PT	(3)	26

（審・日比、工藤）

昭和学院（千葉）23〔11－11 12－11〕22 **熊毛北**（山口）

〔戦評〕名門・昭和に対し、熊毛北は前半最初から堂々の戦いぶり。熊毛植田、白木のカットイン、ロングシュートに加え、全員がよく走り得点を重ねていった。これに対し昭和はなかなかエンジンがかからず、いつもの多彩なセットプレーが影をひそめていたが、山田の確実なサイドシュートなどでなんとか踏んばり、前半終了間際フォーメーションを使って同点とした。
後半に入ると、昭和は前半は途中からの植田へのマンツーマンがようやく効を奏し始め、徐々にペースをつかんで引き離しにかかるが、熊毛北も白木が一人気を吐き、豪快に昭和ゴールにおそいかかり一進一退を続けた。終わってみれば1点差、熊毛北の健闘の光る一戦であった。

〔能毛北〕	得		〔昭和〕	得
松村	0	GK	時田	0
西本	0	GK		
白木	0	FP	鳥海	4
木弘	11	FP	中村	7
樋口	4	FP	村越	2
中野	2	FP	田上	2
中尾	1	FP	竹田	4
藤井	4	FP	館山	0
南	0	FP	山田	4
栗山	0	FP		
山田	0	FP		
河崎	0	FP		
22	(2)	PT	(2)	23

（審・天神、足立）

函館大付（北海道南）13〔9－4 4－4〕8 **川口青陵**（埼玉）

〔戦評〕前半、函館女は攻守ともに一対一の力やパス回しの早さ、正確さが川口青陵を上回り、着々と点差を広げていった。川口青陵はポストディフェンスの甘さをついて反撃したが、パスミス、川口青陵・笹原に対するマークでロングシュートがなかったこと、サイド攻撃が少ないなど攻撃の幅が広がらなかったのが痛かった。
後半、川口青陵は笹原のロング、カットインなどで4点を返し、9－8と1点差まで詰め寄ったが、

〔川口〕	得		〔函大付〕	得
大竹	0	GK	佐藤	0
田仲	0	GK		
知久	0	FP	和歌	2
吉口	0	FP	三輪	1
大竹	0	FP	岡崎	4
曽根原	0	FP	森山	2
三井	0	FP	大野	3
藁谷	5	FP	小島	1
助川	0	FP	鹿戸	0
中村	0	FP	佐藤	0
笹原	3	FP	桜井	0
狩野	0	FP	松坂	0
8	(1)	PT	(1)	13

（審・光安、小坪）

その後は前半と同じように決め手がなく、終了間際、函館の速攻などを浴びて13－8で敗れた。

夙川学院（兵庫）25（11－7 14－6）13 清水市商（静岡）

〔戦評〕試合開始後両チームともミスが目立ち得点に結びつかなかったが、夙川学院・伊藤のカットインからシュートにより連続3点を入れ3－0とリードした。一方清水市商は粘り強い攻撃をしたが、夙川の厚いディフェンスに阻まれ、一進一退をくり返し前半を11－7で終了した。

後半、清水市商は片瀬の活躍により追撃するが、ディフェンスの反則が増え、夙川・西口のPTも決まり、後半15分には21－12とリードを広げる。さらに両チームともスピードある攻撃を続けるが、両GKの好守により25－13で夙川が逃げ切った。

得	〔夙川〕		〔清水〕	得
0	松田	GK	望月	0
0	平塚	GK	川端	0
5	伊藤	FP	青木	2
8	西口	FP	山下	1
0	新村	FP	佐藤	1
3	大林	FP	志村	2
2	田淵	FP	片瀬	5
0	田口	FP	川口	2
1	岡	FP	高田	0
0	戸高	FP	榊原	0
4	江崎	FP	秋保	0
2	巽	FP	大倉	0
25	(5)	PT	(1)	13

（審・岩本・板倉）

彦根商（滋賀）18（9－4 9－2）6 本庄（宮崎）

〔戦評〕立ち上がりから彦根商は1・2・3のプレスディフェンスにより本庄の攻撃を完壁に封じ、主導権を握った。ところが、シュートミスが目立ち、なかなか得点を重ねることができない。一方本庄は、前半20あたりからオフェンスシステムを変え反撃するが、ディフェンスのミスも重なり、前半を9－4で折り返す。

後半に入っても彦根商のペースが変わらず、ゲームは一方的な展開となった。セットディフェンスで本庄の攻撃を押さえた彦根商が18－6で大勝した。

得	〔彦根商〕		〔本庄〕	得
0	川崎	GK	倉田	0
0	北川	GK	長嶺	0
4	吉本	FP	外山	0
6	山尾	FP	桑原	3
3	浅居	FP	小谷	0
3	井手	FP	阿部	1
1	松山	FP	島脇	0
0	安藤	FP	日高	2
0	林	FP	小森	0
1	馬場	FP	小牧	0
0	小松	FP	外山	0
0	藤木	FP	茶木	0
18		PT		6

（審・渡辺・楓）

聖和学園（宮城）20（11－7 9－11）18 江東商（東京）

〔戦評〕開始直後は江東商が聖和のミスをついて先取点をあげいいスタートを切ったが、10分過ぎから聖和がロングシュート、フェイントで間で割ってのシュートで得点を重ねた。一方の江東商は、石原、水井がロングシュートを打つが、ことごとくディフェンスによるカットなどにより得点できず、前半は11－7で聖和がリードした。

後半に入ると江東商の動きが良くなり、聖和のポストをからめた攻撃をしのぎ、速攻、ロングシュートなどで得点し有利に試合を進めた。聖和はあせりが出てミスを連発し、22分過ぎには1点差に詰め寄られたが、残り3分を何とかしのいで勝利をものにした。

得	〔聖和〕		〔江東商〕	得
0	相沢	GK	奥住	0
0	庄子	GK	山田	0
3	佐藤	FP	仁多見	2
8	佐藤	FP	福田	0
1	桜井	FP	望月	0
0	小山	FP	高塚	1
5	目黒	FP	伊藤	0
2	藤田	FP	堀田	3
1	八重樫	FP	石原	7
0	山口	FP	水井	4
0	小田嶋	FP	山田	1
0	三嶋	FP	関	0
20	(4)	PT	(2)	18

（審・永田・花井）

小松商（石川）22（11－3 11－4）7 東海女（愛知）

〔戦評〕立ち上がり、双方ともディフェンス、GKの好守で5分間ノーゴールが続き、緊迫したゲームになった。

その後も初戦とあって動きが固く、ミスがあり、得点が伸びず15分でスピードに勝る小松商が4－1とリードした。その後も小松商は速いピストンディフェンスで東海女のロングを封じ、速攻をつないで前半11－3と小松商がリードして終了。

後半に入っても小松商の足は止まらず、ディフェンスで東海女の攻撃を押さえ、スピードあふれる攻撃で得点を重ね、22－7で勝利を収めた。

得	〔小松商〕		〔東海女〕	得
0	馬場	GK	小柳	0
0	宇野	GK		
2	畠中	FP	三好	0
7	河原	FP	内山	0
2	角	FP	吉本	2
1	田島	FP	久米	0
0	米田	FP	児島	3
0	西木	FP	坂東	2
4	東	FP	今瀬	0
4	清水	FP		
1	中居	FP		
1	山口	FP		
22	(2)	PT	(2)	7

（審・松本・石川）

2回戦

国学院栃木（栃木）24（15－6 9－8）14 西宇治

〔戦評〕開始早々、西宇治・高木の連続のサイドシュートでリズムをつかむかと思われたが、地力に勝る国学院栃木が多彩な攻撃で連続加点し、前半を15－6と大差をつけて終わる。

後半、西宇治・大澤の活躍などもあり善戦するが、前半の点差で余裕をもってプレーする国学院栃木についていけず、24－14で終了する。

得	〔国学院〕		〔西宇治〕	得
0	秋房	GK	内田	0
0	堅口	GK	仲間	0
1	高橋	FP	大沢	5
9	寺内	FP	国嶺	0
6	新井	FP	井月	1
0	寺内	FP	卯路	2
2	西村	FP	内山	0
4	若林	FP	和田	1
2	山口	FP	高木	4
0	藤栄	FP	笹部	0
0	臼井	FP	小山	1
0	大橋	FP	金森	0
24	(2)	PT	(2)	14

（審・永田・花井）

名短付23（9―4、14―6）10 大曲農

〔戦評〕前半から名短付は速い攻撃で得点を重ねた。一方大曲農は、前半で3人の退場者を出し苦しい試合展開となった。

後半に入っても、名短付GK柴田の好守とキャプテン飯田のカットインシュート、塩田のロングシュートで名短付は着実に得点していった。大曲農は失格者、退場者が続き、最後までペースをつかめなかった。

得	〔名短付〕		〔大曲農〕	得
0	紫田	GK	大澤	0
0	平山	GK	板谷	0
8	飯田	FP	今川	0
7	塩田	FP	千葉	0
1	合田	FP	加藤	0
0	中田	FP	小松	0
1	山田	FP	松本	1
3	飯田	FP	千田	5
3	武藤	FP	千田	1
0	鈴木	FP	高橋	0
0	加藤	FP	本杉	2
			中村	1
23	(2)	PT	(4)	10

（審・細沢・清水）

熊本女商（熊本）27（14―4、13―7）11 暁

〔戦評〕立ち上がりからパワーあふれる熊本女商が田中、鶴田の活躍で着実に得点を加える。一方暁もエース江川のロングシュートで応戦するが、地力に勝る熊本女商が大差をつけて前半を終える。

後半は暁のペースで展開され、熊本女商のスピードが生かされず、互角の戦いで進むが、安定した力を誇る熊本女商が中盤から本領を発揮し、27―11で終了する。

得	〔熊本〕		〔暁〕	得
0	城下	GK	高橋	0
0	岩本	GK		
3	高洲	FP	江川	6
0	杉本	FP	豊田	1
0	浜	FP	清水	0
2	高橋	FP	渥美	0
7	田中	FP	寺前	1
9	鶴田	FP	倭	1
2	日坂	FP	中川	2
0	高洲	FP		
3	山田	FP		
1	田中	FP		
27	(5)	PT	(2)	11

（審・日比・工藤）

函館大付属女子商が今大会大健闘を見せた

昭和学院18（7―8、11―5）13 宣真（大阪）

〔戦評〕両チームとも立ち上がりからミスをくり返し、攻撃もやや単調であるためなかなか得点できなかった。しかし、宣真のエース木口が13分のフリースローをきっかけに徐々に調子を上げ、宣真のペースとなる。一方昭和も作戦タイムをきっかけにペースをつかみ、前半は宣真が一歩リード。

後半開始早々にサイドシュートで昭和が同点とする。その後は、昭和は中村を中心の攻撃、宣真は中尾を中心の攻撃でシーソーゲームとなる。残り4分、昭和の速攻を止めるために犯した反則による宣真の退場をきっかけに完全に昭和のペースとなり、昭和が勝利を収めた。

得	〔昭和〕		〔宣真〕	得
0	時田	GK	辻	0
		GK	上田	0
4	鳥海	FP	日野	0
11	中村	FP	長藤	1
0	村越	FP	木口	6
1	田上	FP	田代	0
0	竹田	FP	中尾	5
0	館下	FP	石原	0
2	山田	FP	橋本	0
			中井	1
			石田	0
			水田	0
18	(4)	PT	(2)	13

（審・　）

函館大付（北海道南）15（7―5、6―8、1―0、1―2、5PTC4）15 山陽女（広島）

〔戦評〕両チームとも最後まであきらめずに白熱した好ゲームであった。両チームとも守りではやや手を使い退場者が続出したが、よく守り抜いていた。前半20分過ぎ山陽女は守りで集中力を欠くプレーが目立ち、3連続得点を許して7―5で折り返した。

後半、函館大付女商は前半リードしたためか攻撃が消極的になり、流れが山陽女に傾いて5分に逆転され、15には4点差をつけられてしまった。しかし、この山陽女に向いた流れも、18分過ぎの山陽女が退場者を出すことによって守りが雑になり、函館大付の岡崎に3連続PTを許し、同点で終了、延長戦となる。延長展開、山陽女は4人であったがよく粘り、第1延長では決まらずPTCに入った。結局最後は函館大付GKの好守で勝負がついた。

得	〔函大付〕		〔山陽女〕	得
0		GK	久保	0
0		GK	井上	0
0	和歌	FP	土師	4
0	三輪	FP	飯田	5
9	岡崎	FP	村岡	0
4	森山	FP	横田	1
0	大野	FP	許田	0
1	小島	FP	松本	1
0	鹿戸	FP	岡本	0
0	佐藤	FP	今田	4
0	桜井	FP	横山	0
0	松阪	FP	川口	0
15	(2)	PT	(2)	15

（審・天神・足立）

夙川学院24（9―5、15―4）9 今治南（愛媛）

〔戦評〕立ち上がり、両チームとも固さが見られ、前半15分過ぎまでロースコアーのゲーム展開とな

る。前半18分、夙川学院はサイドへの攻撃でリズムに乗り、前半20分に3点差とする。今治南も必死に追い上げるが、得点に結びつけることができずに前半を終了する。
後半に入り、攻めあぐむ今治南に対し夙川は速攻、ポストプレーと着実に得点を重ねる。残り5分今治南も粘りを見せ、堅実なプレーで応戦するが、地力に勝る夙川の前にあえなく敗退した。

〔今治南〕		得
GK	鳥生	0
	中村	0
FP	渡邊	1
	加藤	2
	高田	1
	越智	0
	長野	3
	森	0
	池田	0
	廣瀬	0
	竹中	2
	山崎	1
PT	(0)	9

（審・板倉・岩本）

〔夙川〕		得
GK	松田	0
	平塚	0
FP	伊藤	2
	西口	4
	新村	0
	大林	3
	田渕	2
	田口	0
	岡	8
	戸高	0
	江崎	4
	巽	1
PT	(1)	24

彦根商 20 （14―4 6―8） 12 聖和学園

〔戦評〕試合開始3分に彦根商・山尾のステップシュートなどにより連続3点を先取した。一方聖和は佐藤のロングシュートなどにより追撃するが、前半15分には8―3と大きくリードされた。彦根商は速い展開の攻撃で着々と得点を重ね、14―4で前半を終了した。
後半立ち上がり、聖和はポストをからめた攻撃と彦根商に退場が相つぎ、7点を連取し14―11とした。しかし、落ち着きを取り戻した彦根商はサイドシュートなどにより得点を重ね、20―12で終了した。聖和の猛追撃を断ち切り、

〔聖和〕		得
GK	相沢	0
	庄子	0
FP	佐藤	3
	佐藤	2
	桜井	1
	小山	1
	目黒	2
	藤田	3
	八重樫	0
	山口	0
	三嶋	0
	佐藤	0
PT	(0)	12

（審・松本・石川）

〔彦根商〕		得
GK	川崎	0
	北川	0
FP	吉本	4
	山尾	4
	浅居	3
	井出	1
	安藤	2
	林	6
	宮尾	0
	丸山	0
	小松	0
PT	(3)	20

小松商 24 （14―4 10―12） 16 明倫（神奈川）

〔戦評〕両チームともにスピードのある攻撃を展開し、面白い試合が予想された。しかし、確実にシュートまでもっていく小松商に対し明倫は相手のディフェンスを破れず、なかなかシュートまでもっていけない。明倫は作戦タイムをとるものの流れは変わらず、苦しいゲーム展開が続く。結局、自分たちのリズムでゲームをした小松商が14―4で前半終了。
後半、明倫は村山の活躍や相手のシュートミスなどもあって必死に追い上げる。しかし、前半の得点差が大きくものをいい、小松商が3回戦進出を決めた。

〔明倫〕		得
GK	岡田	0
FP	村山	7
	小荒井	4
	徳島	5
	桑原	0
	小川	0
	本郷	0
	高橋	0
	榑松	0
PT	(3)	16

（審・夏目・中森）

〔小松商〕		得
GK	馬場	0
	宇野	0
FP	畠中	4
	河原	5
	角	2
	田島	3
	米田	0
	西木	0
	東	6
	清水	3
	中居	1
	山口	0
PT	(2)	24

3回戦

名短付 19 （8―7 8―9 1―1 2―0） 19 国学院栃木

〔戦評〕前半立ち上がりから名短付は飯田のロングシュートなどで得点をあげたのに対し、国学院栃木も粘り強い攻撃で西村のサイドシュートなどで得点し、前半8―7と名短付が1点リードで終了。
後半に入っても、両チームとも積極的な攻撃で一進一退を続け、1点を争う好ゲームとなった。後半残り2分には国学院栃木は2点差をつけそのまま逃げ切るかに見えた。しかし残り20秒、名短付はPTで同点に追いつき延長戦となった。延長に入っても両チームの白熱した攻防が続いたが、延長後半・名短付が武藤のサイドシュートでリードし、残り2分、国学院栃木のPTを名短付・柴田が防ぎそのまま逃げ切った。

〔国学院〕		得
GK	秋房	0
	堅口	0
FP	高橋	1
	寺内	2
	新井	6
	寺内	0
	西村	7
	若林	0
	山口	1
	増山	0
	大橋	0
	天海	0
PT	(3)	17

（審・日比・工藤）

〔名短付〕		得
GK	柴田	0
	平山	0
FP	飯田	8
	塩田	4
	合田	3
	中田	0
	山田	2
	飯田	0
	武藤	2
	鈴木	0
	加藤	0
PT	(2)	19

昭和学院 17 （10―8 5―7 2―1 0―0） 16 熊本女商

〔戦評〕立ち上がり、昭和は連続4点を決め主導権を握った。一方熊本女商は鶴田の活躍で追い上げ前半15分頃から一進一退の攻防が続き、前半は10―8と昭和リードで終了した。
後半に入ると熊本は昭和のエース中村の2分間の退場をきっかけに同点に追いついたが、昭和は山田が大事なところでサイドシュートをたて続けに決め、勝負あったかに見えたが、熊本は昭和・中村をマンツーマンで動きを封じ、終了3分前に同点に追いつき延長戦に突入した。延長戦では両チームとも退場者が続出し、めまぐるしい展開となったが、最後は昭和が前半の1点差を守り逃げ切った。

〔熊本〕		得
GK	城下	0
	岩本	0
FP	高洲	1
	杉本	0
	浜	0
	高橋	2
	田中	3
	鶴田	8
	日坂	0
	高洲	0
	山田	2
	田中	0
PT	(4)	16

（審・松本・石川）

〔昭和〕		得
GK	時田	0
FP	鳥海	1
	中村	7
	村越	0
	田上	1
	竹田	2
	館下	0
	山田	6
PT	(4)	17

夙川学院 18 〔9—4 / 9—4〕 8 函館大付

〔戦評〕前半、夙川が立ち上がりから多彩な攻めで確実に加点し、9—4で終了。
　後半、函館大付女商も必死に追い上げるが、10分を過ぎるとたて続けに速攻を許し点差を広げられたが、最後まで力一杯の好プレーを展開してくれた。

得	〔夙川〕		〔函大付〕	得
0	松田	GK	佐藤	0
0	平塚	GK		
0	伊藤	FP	和歌	0
4	西口	FP	三輪	0
0	新村	FP	岡崎	1
3	大林	FP	森山	0
0	田渕	FP	大野	3
0	田口	FP	小島	4
8	岡	FP	鹿戸	0
0	戸崎	FP	佐藤	0
3	江崎	FP	桜井	0
0	巽	FP	松坂	0
18	(3)	PT	(0)	8

（審・永田、花井）

小松商 14 〔6—5 / 6—7 / 1—0 / 1—2〕 14 彦根商
3 PTC 2

〔戦評〕立ち上がり彦根商の左腕・吉本のロングで勢いに乗るかと思えたが、小松商GKを中心に堅い守りで得点を与えず15分には追いついた。その後は一進一退の攻防が続き、前半小松商の1点リードで折り返した。
　後半は5分までに小松商・富中のミドルなどで10—6とリードするが、彦根商も手尾のステップなどで残り1分ついに同点に追いつき、そのまま延長に突入した。
　延長も前・後半同様、1点を争うゲームとなり結局PTCにもつれこみ、3—2で小松商が勝った。

得	〔小松商〕		〔彦根商〕	得
0	馬場	GK	川崎	0
0	宇野	GK	北川	0
4	畠中	FP	吉本	5
1	河原	FP	山尾	8
0	角	FP	浅居	0
1	田島	FP	井出	0
0	米田	FP	松山	0
0	西木	FP	安藤	0
2	東	FP	林	1
0	藤田	FP	馬場	0
6	清水	FP	宮尾	0
0	中居	FP	小松	0
14	(2)	PT	(4)	14

（審・天神、足立）

決勝戦，名短付懸命の追い上げも及ばず夙川が逃げ切る

準決勝

名短付 18 〔9—8 / 9—7〕 15 昭和学院

〔戦評〕前半8分まで2—2の緊迫したゲームとなったが、名短付は速攻により連続3得点をあげ、昭和を突き放した。しかし、昭和も中村、竹田のロングシュートで追い上げ、一進一退のゲームとなり、9—8と名短付の1点リードで前半を終了。
　後半に入っても2点差での一進一退のゲーム展開となる。昭和は最後まで名短付のスピードあるディフェンスを攻め切れなかった。
名短付は、多彩な攻撃で得点をあげたが、大事なところでシュートミスが多く、最後まで苦しいゲーム展開となった。

得	〔名短付〕		〔昭和〕	得
0	柴田	GK	時田	0
0	平山	GK		
3	飯田	FP	鳥海	0
2	塩田	FP	中村	6
4	合田	FP	村越	0
0	中田	FP	田上	2
6	山田	FP	竹田	4
2	飯田	FP	館下	0
1	武藤	FP	山田	3
0	鈴木	FP		
0	加藤	FP		
18	(1)	PT	(0)	15

（審・松本、石川）

夙川学院 8 〔3—3 / 5—3〕 6 小松商

〔戦評〕前半、お互いのディフェンスがよく、カットイン、ポストプレーをよく防ぎ、ロングシュートの勝負となった。小松商・畠中、角のロングシュート、夙川学院・江崎のロングシュートが決まらずロースコアーの3—3で前半を終了した。
　後半も前半と同じ展開で、ディフェンスがよく、GKの好守もあって一進一退の展開が続き、夙川が最後8—6で逃げ切った。
　夙川の勝因は、ロングシュートの確率で小松商を上回ったことである。

得	〔夙川〕		〔小松商〕	得
0	松田	GK	馬場	0
0	平塚	GK	宇野	0
1	伊藤	FP	畠中	1
0	西口	FP	河原	2
0	新村	FP	角	1
4	大林	FP	田島	0
1	田渕	FP	米田	0
0	田口	FP	西木	0
0	岡	FP	東	1
0	戸崎	FP	清水	1
2	江崎	FP	中居	0
0	巽	FP	山口	0
8	(1)	PT	(1)	6

（審・日比、工藤）

決勝

夙川学院 13 〔9—4 / 4—8〕 12 名短付

〔戦評〕開始早々、夙川は江崎、西口のロングシュート、岡のサイドシュートで好スタートを切る。一方名短付は、リズムに乗れず、単調な攻撃が続く。
　中盤以降、両チームとも緊張が解け、互いの持ち味を出しらじめたが、安定したディフェンス力を発揮した夙川が9—4とリードして前半を終える。
　後半に入り、逃げに入った夙川は足が止まり、雑な攻撃が目立ちミスが続出した。その間をぬって名短付は飯田、塩田の活躍で同点に追いつく。その後一進一退の攻防が続いたが、残り13秒、夙川・西口のロングシュートが決まり、13—12で、見事夙川に初優勝をもたらした。

得	〔夙川〕		〔名短付〕	得
0	松田	GK	柴田	0
0	平塚	GK	平山	0
0	伊藤	FP	飯田	3
5	西口	FP	塩田	3
0	新村	FP	合田	1
4	大林	FP	中田	0
0	田渕	FP	山田	0
0	田口	FP	飯田	5
2	岡	FP	武藤	0
0	戸高	FP	鈴木	0
2	江崎	FP	加藤	0
0	巽	FP		
13	(2)	PT	(1)	12

（審・細沢、清水）

世界スポーツサミットⅢに参加して

大同特殊鋼監督　蒲生晴明

世界名国からスポーツにおける超一流のドクター・監督・コーチが一堂に会し、今回「人間性の回復を目指して」のテーマについて世界スポーツサミットⅢが開催され、講演ならびに討論がされた。

今回のサミットには、ソウル・オリンピック女子ハンドボールで金メダルを獲得した韓国女子チーム監督の高丙勲氏が講師として招かれ、実技指導と講演をされた。

私は、その両方に参加して、一監督として感ずるところを述べてみたい。

私は、世界一になるまでの高氏の指導方法・理論・トレーニング方法がどのようなものか、大きな期待を持っていた。やはり、世界一になるためには、われわれと違った方法で強化をしていることであろうと考えていたからである。

実技指導が開始され、ウォームアップからの基本動作（オフェンス・ディフェンス）、セクション別の攻防戦と実に淡々と流れるように指導がなされていった。

私は、この指導・トレーニングの内容が、われわれが何年か前に実施していたことを思い出した。さらには、近年になって実施しているものにも数多くあり、私の期待とは裏腹に、目新しいものではなかった。

しかし、大きな違いが一点だけあった。それは、一つのトレーニングをマスターするまで徹底的に指導しているところであった。そして、そのトレーニングの最中に「基本的な動作」、特にフォーム（姿勢）・スタップワークについては、相当しつこく指摘していた。

この点は、プレーの結果を重視しているとなかなか気が付かないが、高氏は、結果を出すための過程を重視し、その行程での基本的なフォームとステップワークを本当に大切にしていた。

我々東洋人が、ヨーロッパの大きな選手に対する際、スピードとテクニックが必要であるが、そのどちらをとっても、それを満足させるために基本的なフォーム、ステップワークが完備されていないと勝てない。

スピードがアップすれば、それだけミス発生率が高くなり、だからこそフォーム、そしてバランス、さらにボディコントロールが大切なのである。

これからは、トレーニングを行なっていくうえで、我々が忘れかけている基本的な動作を数多く取り入れ、日本人独特のプレーを世界で発揮するための基盤とすべきである。

さらに、こうした基本動作をつくっているものは、やはり基礎体力であった。講演中、スライドを利用して説明されていたが、スライドの約50パーセントはウエイトトレーニングのものであった。いかに重要視し、相当な時間を費やしたかがよく理解できる。

基本的なフォームやボディコントロールを実践する時には、パワーが必要であり、特に身体接触を許されているハンドボールでは、基礎体力の優劣が勝敗に大きく影響してくる（ソウル・オリンピックの韓国選手団中で、ハンドボール選手が男女共に基礎体力はトップであった）。私も高校時代によくウエイトトレーニングをしたが、よく考えると、その当時がからだづくりで一番大切な時期であったと思う。

韓国選手の年齢は、16歳から23歳と非常に若く、この時期にウエイトトレーニングを実施した結果が、金メダルへとつながっていたのである。

現在の日本は、各大会が目白押しで、基礎体力づくりをする時間が少なくなっているかもしれない。しかし、身体接触をする競技では技術強化するだけでなく、体力強化も同レベルで行い、体力が技術を生み出すように、より時間をかけるべきである。また、基礎体力づくりは、ケガの予防になり、この点についても、今回の高氏の講演の中で、発表があった。私はウエイトトレーニングの重要性を再認識し、非常に感銘を受けた。

最後に、ソウル・オリンピック終了後、新聞やテレビなどのマスコミに「韓国にできて日本にできぬことはない」とよく指摘されましたが、ハンドボールに限らず、国家をあげて強化に取り組むという環境がない限り相当難しい。もしこの環境を同条件で実施することが可能ならば、その成果は得られるだろう。

しかしそう言っても、お国柄の違いやスポーツを実施するうえでの組織が異なり、難しい点が多々あると思う。

我々は、日本の中で可能なことを精一杯実施していくことしかないが、出来ることから韓国に近い環境下でハンドボールを普及強化していきたい。

各地の記録から…

東北

全国高校選抜青森県第2次予選

（1月12、13日／弘前市民体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

青森商 23－15 野辺地
青森商 33－16 青森東
青森商 12－0 鯵ヶ沢
野辺地 27－18 青森東
野辺地 12－0 鯵ヶ沢
青森東 12－0 鯵ヶ沢

〔順位〕①青森商②野辺地③青森東④鯵ヶ沢

〈女子〉

▼リーグ戦

青森西 21－19 青森中央
青森西 24－7 野辺地
青森西 28－7 三本木
青森中央 15－10 野辺地
青森中央 30－10 三本木
野辺地 17－10 三本木

〔順位〕①青森西②青森中央③野辺地④三本木

全国高校選抜宮城県二次予選

（1月13日／塩釜市体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

仙台育英 20－10 仙台商
仙台向山 20－19 古川工
仙台育英 23－14 仙台向山
仙台商 22－22 古川工
仙台向山 23－22 仙台商
仙台育英 35－20 古川工

〔順位〕①仙台育英②仙台向山③仙台商④古川工

〈女子〉

▼リーグ戦

聖和学園 24－10 宮城二女
古川商 21－13 宮城三女
聖和学園 37－14 宮城三女
古川商 23－4 宮城二女
宮城三女 13－12 宮城二女
聖和学園 17－15 古川商

〔順位〕①聖和学園②古川商③宮城三女④宮城二女

関東

千葉県高校新人大会

（1月14～16日／三井石油体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

土気 23－11 幕張北
県沼南 23－16 流山中央
千葉南 17－8 京葉
佐原 26－5 浦安南
船橋法典 21－13 国府台

▼2回戦

市川 22－10 土気
学館浦安 27－9 県沼南
二松沼南 22－13 泉
東邦 29－5 千葉南
佐原 12－11 柏南
東京学館 6－5 木更津
松戸六実 20－13 東葛飾
八千代 17－9 船橋法典

▼3回戦

市川 25－6 学館浦安
東邦 11－8 二松沼南
東京学館 10－9 佐原
松戸六実 10－9 八千代

▼準決勝

市川 20－16 東邦
東京学館 31－9 松戸六実

▼決勝

市川 29（15－8、14－8）16 東京学館

〈女子〉

▼1回戦

昭和学院 35－2 若松
佐原女 16－5 流山中央
土気 11－8 柏南
東邦 21－3 泉
幕張北 13－9 専大松戸
御宿家政 15－12 松戸秋山
聖徳 12－5 若葉看護
和洋 28－6 佐原

▼2回戦

昭和学院 30－9 佐原女
東邦 13－10 土気
御宿家政 19－11 幕張北
和洋 26－4 聖徳

▼準決勝

昭和学院 25－7 東邦
和洋 30－7 御宿家政

▼決勝

昭和学院 17（9－7、8－5）12 和洋

茨城県高校新人大会

（1月18～20日／岩井市体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

伊奈 22－7 水戸一
土浦日大 25－6 土浦工
八郷 19－11 藤代紫水

▼2回戦

岩井 20－15 伊奈
牛久 18－15 結城一
江戸川学園 25－23 竹園
取手松陽 18－13 藤代
竜ヶ崎一 39－14 勝田
藤代 20－17 古河三
土浦一 18－14 土浦三
麻生 33－11 竜ヶ崎南
笠間 16－13 不明
玉造工 16－14 日立一
土浦湖北 42－4 勝田工
鹿島灘 22－14 波崎
水海道一 37－5 茨城
鉾田一 35－21 神栖
並木 35－27 岩井西
太田一 28－21 八郷

▼3回戦

岩井 36－8 牛久
江戸川学園 22－15 取手松陽
竜ヶ崎一 26－14 藤代
麻生 22－18 土浦一
笠間 26－5 玉造工
土浦湖北 20－13 鹿島灘
水海道一 40－7 鉾田一
太田一 30－20 並木

▼4回戦

岩井 24－11 江戸川学園
竜ヶ崎一 30－21 麻生
笠間 25－13 土浦湖北
水海道一 26－10 太田一

▼準決勝

岩井 24－17 竜ヶ崎一
水海道一 27－13 笠間

▼3位決定戦

笠間 22－21 竜ヶ崎一

▼決勝

水海道一 17（8－8、9－6）14 岩井

〈女子〉

▼1回戦

土浦二 19－11 結城二
磯原 19－15 並木
岩井西 36－18 土浦三
鉾田二 18－13 日立二
岩井 21－14 土浦湖北
藤代紫水 10－5 下妻二
竜ヶ崎南 17－10 高萩
湖来 19－12 藤代
八郷 16－11 下館二
鉾田一 24－16 太田二
愛国学園 30－25 水海道一
聖徳学園 22－14 竜ヶ崎一

▼2回戦

水海道二 18－13 土浦二
岩井西 36－13 磯原
鉾田二 30－18 岩井

藤代紫水 23―5 水戸二
竜ヶ崎二 44―3 竜ヶ崎南
湖来 42―7 八郷
愛国学園 21―19 鉾田一
麻生 26―8 聖徳学園

▼3回戦
水海道二 36―7 岩井西
鉾田二 21―15 藤代紫水
竜ヶ崎二 24―8 湖来
麻生 25―14 愛国学園

▼準決勝
水海道二 28―4 鉾田二
麻生 19―16 竜ヶ崎二

▼3位決定戦
竜ヶ崎二 31―8 鉾田二

▼決勝
水海道二 19（8―5、11―8）13 麻生

全国高校選抜関東地区予選

（2月11、12日／土浦一高）

〈男子〉

▼Aリーグ
吉井（群馬）29（14―9、15―7）16 宇都宮北（栃木）
浦和学院（埼玉）24（8―12、16―6）18 吉井
浦和学院 21（8―7、13―5）12 宇都宮北

▼Bリーグ
市川（千葉）27（13―10、14―10）20 日大明誠（山梨）
市川 25（11―13、14―11）24 水海道一（茨城）
水海道一 25（13―13、12―11）24 日大明誠

▼全国大会出場決定戦
吉井 21（11―9、10―7）16 水海道一

▼関東大会優勝決定トーナメント
明星（東京）21（10―2、11―5）7 横浜商工（神奈川）
市川 18（11―5、7―10）15 浦和学院
日大明誠 17（11―5、6―7）12 日大明誠
横浜商工 21（9―12、12―7）19 浦和学院
明星 18（9―7、9―10）17 市川

〔順位〕①明星②市川③横浜商工
〔全国大会出場校〕明星、横浜商工、浦和学院、市川、吉井

〈女子〉

▼Aリーグ
昭和学院（千葉）19（7―8、12―4）12 川口青陵（埼玉）
川口青陵 23（12―11、11―3）14 吉田（山梨）
昭和学院 26（13―8、13―8）16 吉田

▼Bリーグ
群馬女（群馬）22（10―12、12―9）21 水海道二（茨城）
国学院栃木（栃木）18（10―7、8―5）12 水海道二
国学院栃木 25（11―10、14―6）16 群馬女

▼全国大会出場決定戦
川口青陵 17（9―6、8―8）14 群馬女

▼関東大会優勝決定トーナメント
明倫（神奈川）19（13―11、6―7）18 江東商（東京）
国学院栃木 10（4―4、6―3）7 昭和学院
水海道二 13（2―3、11―3）6 吉田
昭和学院 22（15―7、7―5）12 江東商
国学院栃木 16（7―6、9―7）13 明倫

〔順位〕①国学院栃木②明倫③昭和学院
〔全国大会出場校〕江東商、明倫、昭和学院、国学院栃木、川口青陵

北信越

全国高校選抜北信越予選

（2月11、12日／柏崎高校ほか）

〈男子〉

▼リーグ戦
小松明峰（石川）29（12―7、17―6）13 尾代（長野）
高岡向陵（富山）40（21―10、19―4）14 長岡大手（新潟）
小松明峰 21（11―9、10―6）15 北陸（福井）
高岡向陵 30（17―9、13―9）18 屋代（長野）
北陸 34（18―8、16―12）20 長岡大手
高岡向陵 13（6―5、7―7）12 小松明峰
北陸 23（11―6、12―7）13 屋代
小松明峰 46（22―6、24―9）15 長岡大手
高岡向陵 26（14―12、12―8）20 北陸
屋代 25（12―11、13―7）18 長岡大手

〔順位〕①高岡向陵②小松明峰③北陸④屋代⑤長岡大手

〈女子〉

▼リーグ戦
福井商（福井）19（9―4、10―4）新潟江南（新潟）
小松商（石川）36（16―7、20―3）10 佐久（長野）
小杉（富山）16（10―8、6―8）16 新潟江南
小松商 21（11―5、10―8）13 福井商
小杉 36（22―11、14―9）20 佐久
福井商 15（9―5、6―7）12 小杉
小松商 36（17―3、19―2）5 新潟江南
福井商 22（12―7、10―5）12 佐久
小松商 23（11―3、12―10）13 小杉
新潟江南 18（7―5、11―4）9 佐久

〔順位〕①小松商②福井商③小杉④新潟江南⑤佐久

東海

岐阜県高校新人大会

（12月25、26日／岐阜県民体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

岐阜東 22－14 岐阜南
斐太 31－22 名務原西
岐阜西工 32－8 大垣工
大垣東 18－14 中津

▼2回戦

市岐阜商 20－5 岐阜東
斐太 20－12 名務原
岐阜西工 25－8 可児
県岐阜商 31－14 大垣東

▼準決勝

市岐阜商 31－3 斐太
岐阜西工 14－13 県岐阜商

▼3位決定戦

県岐阜商 18－17 斐太
市岐阜商 13（6－1、7－3）4 岐阜西工

〈女子〉

▼1回戦

県岐阜商 14－11 富田
斐太 12－0 高山
郡上 14－13 大垣東
瑞浪 15－11 大垣南

▼2回戦

養老女商 24－7 県岐阜商
斐太 31－3 各務原西
海津北 23－11 郡上
本巣 32－14 瑞浪

▼準決勝

養老女商 17－10 斐太
本巣 25－8 海津北

▼3位決定戦

斐太 18－6 海津北

▼決勝

養老女商 26（17－8、9－7）15 本巣

三重県高校新人大会

（1月8、14～16日／四日市体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

津東 24－9 津工
海星 25－13 上野工
津 20－13 桑名工
四日市西 26－16 尾鷲
桑名北 キケン 川越

▼2回戦

四日市工 11－7 津東
四日市四郷 23－14 名張西
亀山 21－11 桑名
海星 22－14 四日市南
四日市 14－7 津
四日市西 35－9 津西
四日市中央工 18－14 高田
桑名北 12－9 桑名西

▼3回戦

四日市工 19－12 四日市四郷
亀山 27－8 海星
四日市 25－12 四日市西
桑名北 20－6 四日市中央工

▼準決勝

四日市工 16－10 亀山
四日市 12－9 桑名北

▼3位決定戦

亀山 23－10 桑名北

▼決勝

四日市工 22（9－6、13－7）13 四日市

〈女子〉

▼1回戦

暁 24－2 桑名
四日市南 27－4 松阪女
四日市商 19－7 尾鷲
亀山 12－10 四日市
四日市西 23－22 名張西
川越 14－6 桑名西
上野 22－4 津西
津東 39－2 津

▼2回戦

暁 23－5 四日市南
亀山 8－7 四日市商
四日市西 14－8 川越
津東 41－4 上野

▼準決勝

暁 30－6 亀山
津東 14－5 四日市西

▼3位決定戦

四日市西 15－13 亀山

▼決勝

暁 18（8－7、10－5）12 津東

第15回三重県中学新人大会

（1月22、29日／津市体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

笹川 12－6 東員第二

▼2回戦

明和 13－10 南
亀山 29－12 西朝明
西笹川 20－7 菰野
白子 19－8 笹川

▼準決勝

白子 14－6 明和
亀山 7－6 西笹川

▼決勝

亀山 13（5－7、8－5）12 白子

〈女子〉

▼1回戦

赤目 15－4 北勢
東員第二 20－4 名張北
三雲 17－0 羽津

▼2回戦

西朝明 23－2 大安
白子 17－11 阿山
南 21－13 朝明
西笹川 41－7 赤目
笹川 キケン 亀山中部
明和 9－4 東員第二
菰野 19－8 桔梗が丘
亀山 23－6 三雲

▼3回戦

白子 11－10 西朝明
西笹川 20－10 南
笹川 13－5 明和
亀山 19－9 菰野

▼準決勝

白子 13－11 西笹川
笹川 13－11 亀山

▼決勝

笹川 12（8－1、4－5）6 白子

近畿

第32回京都府高校新人大会

（11月3～27日／伏見港体育館ほか）

〈男子〉

▼予選リーグ

○A組

東宇治 18－10 山城
堀川 11－9 北稜
東宇治 9－6 北稜
山城 8－6 堀川
堀川 16－8 木津
東宇治 13－5 木津
山城 7－7 北稜
北稜 11－10 木津
山城 12－10 木津
東宇治 20－9 堀川

〔順位〕①東宇治②山城③堀川④北稜⑤木津

○B組

乙訓 15－12 平安
大谷 45－8 塔南
塔南 25－14 両洋
大谷 32－6 平安
乙訓 22－10 両洋
大谷 33－8 乙訓
平安 29－5 両洋
乙訓 20－16 塔南
大谷 28－8 両洋
平安 20－12 塔南

〔順位〕①大谷②乙訓③平安④塔南⑤両洋

○C組

東山 15－9 同志社
鴨沂 17－14 宇治
同志社 17－9 鴨沂
東山 19－6 宇治
嵯峨野 20－15 宇治
同志社 12－7 嵯峨野
東山 16－4 鴨沂
嵯峨野 15－12 鴨沂
同志社 15－9 宇治
東山 22－11 嵯峨野

〔順位〕①東山②同志社③嵯峨野④鴨沂⑤宇治

○D組

桂 16－11 京都西
洛西 19－11 田辺
桂 23－7 田辺
京都西 11－10 洛西
洛西 12－8 城南
桂 27－8 城南
京都西 23－7 田辺
城南 11－5 田辺
桂 25－10 洛西
京都西 25－12 城南

〔順位〕①桂②京都西③洛西④城南⑤田辺

○E組

日吉丘 12－12 洛水
城陽 16－14 京都商
西宇治 12－9 京都商
城陽 19－13 日吉丘
西宇治 19－7 洛水
西宇治 22－11 日吉丘
城陽 16－11 洛水
京都商 16－13 洛水
京都商 24－18 日吉丘
西宇治 14－10 城陽

〔順位〕①西宇治②城陽③京都商④洛水⑤日吉丘

○F組

東稜 24－3 成章
洛北 15－4 久御山
洛北 32－6 成章
東稜 19－4 久御山
久御山 18－10 成章
洛北 11－8 東稜

〔順位〕①洛北②東稜③久御山④成章

○G組

西乙訓 13－6 伏見工
桃山 10－10 洛陽工
西乙訓 10－8 桃山
洛陽工 15－6 伏見工
洛陽工 10－8 西乙訓
桃山 22－3 伏見工

〔順位〕①洛陽②西乙訓③桃山④伏見工

○H組

北嵯峨 14－12 洛星
向陽 23－5 洛東
向陽 12－10 洛星
北嵯峨 23－5 洛東
北嵯峨 15－12 向陽
洛星 12－8 洛東

〔順位〕①北嵯峨②向陽③洛星④洛東

▼決勝トーナメント1回戦

洛北 20－9 城陽
桂 39－4 西乙訓
大谷 34－7 同志社
東宇治 10－9 向陽
東稜 30－10 洛陽工
京都西 35－7 東山
西宇治 23－14 山城
北嵯峨 29－15 乙訓

▼2回戦

桂 17－8 洛北
大谷 21－15 東宇治
京都西 19－14 東稜
北嵯峨 21－13 西宇治

▼準決勝

桂 18－14 大谷
京都西 21－17 北嵯峨

▼3位決定戦

大谷 23－18 北嵯峨

▼決勝

桂 29（13－7、16－5）12 京都西

〈女子〉

▼予選リーグ

○ア組

東宇治 25－2 山城
桃山 11－7 洛水
桃山 27－4 洛東
東宇治 11－5 洛水
東宇治 45－6 洛東
山城 7－6 洛東
洛水 17－8 山城
桃山 16－6 山城
東宇治 15－12 桃山
洛水 17－6 洛東

〔順位〕①東宇治②桃山③洛水④山城⑤洛東

○イ組

洛北 12－4 西乙訓
東稜 14－6 南八幡
西宇治 14－6 西乙訓
洛北 10－5 東稜
西宇治 24－4 東稜

西宇治 21―3 南八幡
洛北 9―2 南八幡
西乙訓 16―5 南八幡
西乙訓 15―6 東稜
西宇治 10―6 洛北
〔順位〕①西宇治②洛北③西乙訓④東稜⑤南八幡

○ウ組
塔南 12―10 乙訓
明徳商 12―6 精華
精華 15―11 西京商
明徳商 26―2 塔南
明徳商 31―5 乙訓
西京商 19―4 乙訓
西京商 18―8 塔南
明徳商 35―6 西京商
精華 22―3 塔南
精華 22―5 乙訓
〔順位〕①明徳商②精華③西京商④塔南⑤乙訓

○エ組
光華 12―7 桂
京都女 27―0 田辺
光華 17―8 田辺
京都女 24―1 桂
京都女 28―5 鴨沂
田辺 7―5 桂
光華 23―4 鴨沂
田辺 19―5 鴨沂
京都女 13―10 光華
桂 13―8 鴨沂
〔順位〕①京都女②光華③田辺④桂⑤鴨沂

○オ組
城南 12―0 嵯峨野
北稜 12―8 向陽
向陽 12―0 嵯峨野
北稜 17―5 城南
北稜 23―2 日吉丘
日吉丘 12―0 嵯峨野
向陽 16―7 城南
向陽 19―4 日吉丘
城南 15―4 日吉丘
北稜 12―0 嵯峨野
〔順位〕①北稜②向陽③城南④日吉丘⑤嵯峨野

○カ組
西山 9―6 城陽
北嵯峨 13―2 洛西
北嵯峨 22―3 城陽
洛西 11―6 西山
洛西 11―4 城陽
北嵯峨 16―6 西山
〔順位〕①北嵯峨②洛西③西山④城陽

▼決勝トーナメント1回戦
桃山 17―3 北嵯峨
洛北 11―2 精華
東宇治 17―8 光華
向陽 13―7 洛西

▼2回戦
京都女 14―8 桃山
洛北 16―7 北稜
東宇治 12―6 明徳商
西宇治 28―8 向陽

▼準決勝
京都女 12―9 洛北
西宇治 14―7 東宇治

▼3位決定戦
東宇治 19―7 洛北

▼決勝
西宇治 13（6―1、7―5）6 東宇治

第22回滋賀県室内総合選手権
（2月12、19日／彦根東高校ほか）

〈男子〉

▼1回戦
滋賀ハンダース 21―3 守山クラブ
高島クラブ 26―14 滋賀大教育

▼2回戦
大津自衛隊 12―0 長浜クラブ
長浜北高 25―11 芹汀会
八幡クラブ 16―11 モック
八幡工高 25―8 全滋賀医大
京セラHC 28―18 滋賀ハンダース
高島クラブ 28―20 野洲高
長浜北OB 21―20 彦根東高

▼3回戦
滋賀教員 27―18 長浜北OB
八幡工高 19―15 京セラHC
長浜北高 20―18 八幡クラブ
高島クラブ 43―15 大津自衛隊

▼準決勝
長浜北高 23―20 高島クラブ
滋賀教員 30―20 八幡北高

▼決勝
滋賀教員 27（14―8、13―8）16 長浜北高

〈女子〉

▼1回戦
彦根東高 23―4 稲枝中

▼2回戦
彦根商高 25―2 守山クラブ
松下電工 13―12 彦根西高
滋賀クラブ 21―11 彦根東高
多賀中 18―8 大津クラブ

▼準決勝
彦根商高 20―16 松下電工
滋賀クラブ 32―12 多賀中

▼決勝
彦根商高 25（14―12、11―4）16 滋賀クラブ

中国

全国高校選抜鳥取県予選
（1月13、14日／倉吉体育文化会館）

〈男子〉

▼1回戦
米子北 23―9 倉吉工
米子東 18―6 米子西

▼準決勝
境 16―9 米子北
境港工 8―4 米子東

▼決勝
境 9（4―2、5―3）5 境港工

〈女子〉

▼1回戦
米子西 33―5 倉吉西
米子北 25―3 倉吉東
米子東 9―8 米子南

▼準決勝
境 37―5 米子西
米子東 23―7 米子北

▼決勝
境 25（12―8、13―2）10 米子東

第28回山口県総合選手権

（1月29日／山口県スポーツ文化センター）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aリーグ

山口県教員団A 21—14 下松クラブ

○Bリーグ

山口大 16—15 東ソー

山口大 20—13 山口県教員団B

山口県教員団B 23—19 東ソー

○Cリーグ

徳山曹達 29—11 宇部クラブ

徳山曹達 19—17 興亜石油

興亜石油 27—20 宇部クラブ

○Dリーグ

下関クラブ 28—14 徳山クラブ

下関クラブ 26—18 山陽国策パルプ

山陽国策パルプ 23—15 徳山クラブ

▼2位グループトーナメント1回戦

下松クラブ 26—24 山口県教員団B

興亜石油 20—19 山陽国策パルプ

▼同決勝

下松クラブ 12—0 興亜石油

▼決勝トーナメント1回戦

山口県教員団A 28—12 山口大

下関クラブ 25—19 徳山曹達

▼決勝

山口県教員団A 25（13—10、12—9）19 下関クラブ

〈女子〉

▼リーグ戦

徳山クラブ 34—8 周南ゆうほく連合

C・G・C 23—6 周南ゆうほく連合

徳山クラブ 25—13 C・G・C

（順位）①徳山クラブ②C・G・C③周南ゆうほく連合

四国

全国高校選抜四国地区予選

（1月28、29日／松山市総合コミュニティーセンター体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

松山北（愛媛） 26（17—6、9—9）15 三好農林（徳島）

松山北 22（15—10、7—7）17 高松商（香川）

松山北 27（17—6、10—4）10 高知西（高知）

高松商 27（11—12、16—5）17 三好農林

高松商 14（6—7、8—7）14 高知西

高知西 26（13—11、13—8）19 三好農林

（順位）①松山北②高松商③高知西④三好農林

〈女子〉

▼リーグ戦

今治南（愛媛） 36（16—6、20—4）10 中村（高知）

今治南 26（17—7、9—2）11 富岡東（徳島）

今治南 16（8—7、8—5）12 高松商（香川）

高松商 26（16—4、10—5）6 富岡東

高松商 28（19—5、9—4）9 中村

富岡東 25（13—10、12—6）16 中村

（順位）①今治南②高松商③富岡東④中村

九州

第27回鹿児島県室内総合選手権

（12月25～27日／鹿児島県体育館ほか）

〈男子1部〉

▼予選リーグAパート

鹿工クラブA 棄権 附中クラブ

鹿児島大 棄権 附中クラブ

▼予選リーグBパート

鹿工クラブA 33—15 鹿児島大

ソニー国分 30—20 鹿児島ク

笠沙OB 25—23 鹿児島ク

ソニー国分 37—20 笠沙OB

▼決勝

ソニー国分 27（10—11、11—10、3—2、3—1）24 鹿児島工クA

〈男子2部〉

▼1回戦

薩南工OB 22—11 鹿大サッカー会

▼2回戦

薩南工OB 29—18 加治木高

指宿ク 10—8 甲南高ハンドク

鹿児島中央A 15—13 頴娃A

鹿南高OB 19—11 出水マリナーズ

甲陵B 27—4 鹿児島商B

鹿児島工A 30—16 自衛隊鹿屋

中央KCFC 17—13 加治木工B

出水高ク 15—9 鹿児島南

附属中OB 16—14 鹿児島高専

Bears 24—22 国分ハンドク

東谷山OB 22—14 鹿児島中央B

鹿工クB 19—16 鹿児島商A

薩摩隼人 36—14 鹿児島工B

鹿児島中央ク 27—13 加治木工A

第一工大 25—14 甲陵A

頴娃B 25—15 川内商工

▼3回戦

薩南工OB 21—5 指宿ク

鹿南高OB 14—11 鹿児島中央A

鹿児島工A 17—8 甲陵B

出水高ク 棄権 中央KCFC

Bears 20—12 附属中OB

東谷山OB 22—20 鹿工クB

鹿中央ク 20—14 薩摩隼人

第一工大 30—14 頴娃B

▼準々決勝

薩南工OB 27—19 鹿南工OB

鹿児島工A 33—16 出水高ク

Bears 29—25 東谷山OB

第一工大 31—27 鹿中央ク

▼準決勝

薩南工OB 21—19 鹿児島工A

第一工大 39—38 Bears

▼決勝

薩南工OB 24（7—9、17—9）18 第一工大

〈女子〉

▼1回戦

鹿児島ク 28—3 重富中B

鹿児島中央高 9—3 伊敷中

重富中A 22—9 谷山中

鹿児島純心B 29—3 重富中C

▼2回戦

鹿児島ク 26—13 鹿児島中央高

国分実B 15—7 鹿児島純心A

鹿児島南 16—7 重富中A

鹿児島大 24—12 ミヤコク

S・K・C 10—9 東谷山中

国分実C 17—4 鹿児島南OG

鹿児島純心B 棄権 牧園ク

▼準決勝

ソニー国分 31—8 鹿児島ク

鹿児島南 21—10 国分実B

鹿児島大 19—4 S・K・C

鹿児島純心B 14—7 国分実C

▼準決勝

ソニー国分 24—12 鹿児島南

鹿児島大 15—13 鹿児島純心B

▼決勝

ソニー国分 27（14—5、13—6）11 鹿児島大

日本協会の新体制決まる（平成元・二年度役員）

役職	氏名
会長	斎藤英四郎
副会長	荒川清美
副会長	立石孝雄
副会長	盛田正明
専務理事	安藤純光
常務理事（総務担当）	塩川安賢
常務理事（財務担当）	滝口三郎
常務理事（企画・日本リーグ）	西村亮治
常務理事（広報担当）	川上整司
常務理事（指導担当）	大西武三
常務理事（普及担当）	伊藤和夫
常務理事（審判担当）	大塚文雄
常務理事（強化担当）	市原則之
理事（東ブロック）	清水正
理事（中ブロック）	加藤雅之
理事（西ブロック）	藤田八郎
理事（実連）	植村繁
理事（学連）	中澤重雄
理事（高体連）	佐野和夫
参事（北海道）	中村崇
参事（東北）	森恭一
参事（東海）	中根武彦
参事（近畿）	梅田幹夫
参事（中国）	平田幸男
参事（四国）	河本武夫
参事（教職員）	柳井文治
参事（自衛隊）	富永劭
監事	松本重雄
監事	大野金一

新体制の詳細、抱負等は次号でお伝えします。

未来をみつめる健康テクノ
asics
走る、跳ぶ、投げる。
制空権を得るためのスカイハンド®。
より高い跳躍とより長い滞空時間。
よりコンパクトなテイクバックとスピーディなスローイング。
ここに至るには 地道な長い練習の日々と、
勝負に臨んでの集中力と爆発力が必要である。
この日のために努力を重ねてきた選手たちに——。
バイオメカニクスで育てられたウェアとシューズ。
アシックスよりおくります。
SKYHAND®
ASICS Handball Wear
asics® TIGER®
ASICS Handball Shoes
株式会社アシックス
●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)624-1814(専用)